

『芸術のある暮らし』を普及するために社会とアートを繋ぐ事業を行います。福祉や介護、子育て支援活動など、芸術の持つ力を広い分野に活用することで、広島市の豊かなまちづくりに寄与します。



舞台芸術
制作室
無色透明

733-0011

広島県広島市西区横川町2-3-1 川崎ビル2階

info.musyokutoumei@gmail.com



おきらく劇場ピロシマ 演劇で人がつながる・まちづくり

忙しい日常の中、ちょっとだけ寄り道できる広場をつくりました。演劇をやってみたいと思う人なら誰でも参加できます。身体を動かしたり、コミュニケーションを取り合ったりしながら、演劇創作を楽しむことができます。

2021年度の「ピロシマ演劇クラブ」では、みんなで短い物語を創作しました。みんなの思い出や悩みを分かち合いながら、演劇を創り上げる面白さを体験することができました。

演劇の手法を活かした コミュニケーションの場づくり

- 「演劇クラブ」 講師：坂田光平（舞台芸術制作室無色透明）（全4回実施）
決められた空間設定（駅、病院など）や小道具、台詞を用いて短いドラマを創作・発表する、演劇創作体験プログラムを行いました。作品を創作する過程で意見交換の時間を設け、みんなの経験や悩みを共有。自分と社会の繋がりを、参加者自身に見つけてもらう機会をつくることができました。



- プロのアーティストによる演劇・ダンスワークショップ開催
オノマトペを用いた表現や身体表現、ストリートダンスを体験。言葉のみのコミュニケーションにこだわらない、様々な表現を発見してもらう機会になりました。

- 「広場をつくろう2021 演劇ワークショップ」 講師：永山智行（劇団こぶく劇場）
オノマトペを用いたオリジナル体操、オノマトペの台詞による物語の創作を体験。個性を活かした自分だけの表現方法を見つけることができました。

- 「♪ K.D.S DANCE SCHOOL&おきらく劇場ピロシマ ダンスと演劇のワークショップ♪」
講師：Ryu, Mizuki (K.D.S DANCE SCHOOL) 坂田光平（舞台芸術制作室無色透明）
シアターゲームでみんなが打ち解けた後は、プロのダンサーの指導によるダンス体験。コミュニケーションを深めつつ、演劇以外の身体表現を学びました。

実践効果

- 「演劇クラブ」「演劇ワークショップ」は、他者と一つの作品を創作していくことを目指した活動です。創作過程で他者と時間や空間の共有を行うことで、参加者のコミュニケーション能力を育むとともに、自己と社会の繋がりを発見するきっかけをつくることができました。
- 実施事業は年齢、性別、障がいの有無に関わらず参加可能です。これにより、「他者の特徴を受け入れ、支え合い共に生きる」姿勢を地域社会へ広め、理解不足による偏見や、コミュニティの分裂を防止することに寄与しました。
- 県外公演を実施することで、演劇を用いた地域づくり活動と、障がいの壁を超えた参加者の生き生きとした姿を他県の地域社会に発信することができました。
- 各媒体による公演情報の発信、オンラインを取り入れた活動は、中止・延期相次ぐコロナ禍での文化芸術活動の実施方法の一つとして、他団体の参考とすることができます。

支援者の反応

みんな、すごく楽しみにしていて、今週初めから、楽しみ楽しみとずっと言っていました。大きい声も出ていて楽しそうでした。演劇クラブが安心して表現できる場なのかもしれません。ありがとうございます。 —50代 女性

演劇公演企画

- おきらく劇場ピロシマ 宮崎公演
『ウタとナンタの人助け2021』
(国文祭・芸文祭みやざき2020「ゆかいな劇場のつくり方」参加作品)
日時：2021年4月3日(土)16:30 / 4月4日(日)11:00
場所：宮崎県調特設劇場 本館の広場(本館2階 講堂)



- 『コロナの詩』
2022年2月19日にひと・まちプラザにて公演予定でしたが「コロナの詩」は、新型コロナウイルス蔓延防止措置により5月1日に延期しました。5月1日の上演に向けて、以下の日程でオンライン形式でインタビューを行いました。

日時：2022年2月19日(日)16:00
形式：Zoomを利用したオンラインインタビュー
インタビュー内容：

- コロナウイルスが続いてどう思いますか？
- コロナウイルスが続いて生活の変化はありますか？
- コロナウイルスがなくなったら、何をしたいですか？ など…

これにより、「旅行に行けない」「休みがふえた」「もうなんとも思わない」など、コロナ渦に対する参加者の様々な想い聞き、みんなで共有することができました。これらの回答を詩にして、5月1日の本番に向け稽古を重ねました。

目的達成状況 成功・失敗した点

- 演劇創作活動を経て、参加者は自分の個性と感性を発見し、それらを自己表現に活かすことができました。演劇体験を主に、この活動がコミュニティの推進と自己表現に効果的であるという地域社会の認知は広がりつつあります。
- 歌、ダンス、楽器等、演劇以外の表現方法を模索し、舞台公演で実行することができました。障がいやコンプレックスによる「できる・できない」に縛られない、自己表現のための手段の幅を広げることができました。
- 感染症対策が恒常的な問題である中でも、体温測定、定期的な換気と消毒等の感染症対策により、プログラムを進行することができました。
- 「コロナの詩」は本来2022年2月19日に公演予定でしたが、新型コロナウイルス蔓延防止措置により5月1日に延期。4月より定期的に稽古を開始し、感染者を出すことなく本番をやり遂げることができました。
- 2021年10月17日に公演予定でした「ウタとナンタの人助け2021」安芸高田市公演は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止としました。

Webを利用した 情報発信

劇団の運営するYouTubeチャンネルにて演劇クラブの活動内容を発信しています。他地域や他団体、演劇に関心のある人々へ、私たちの活動を届けます。

こんな動画が配信されています

- 他の人と手をつなぎ、体温を確かめ合うワーク
- 相手の名前を呼びながらキャッチボールするワーク
- 2人1組になり相手のことをみんなに紹介するワーク

他にもありますので是非ご覧ください。



おきらく劇場ピロシマ
YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UChsTh-2qlfqTKokjQX8LSA>



おきらく劇場ピロシマ
ホームページ

<https://engekihiroshima.wixsite.com/piroshima>

今後の課題・展望

- 感染症拡大防止のためにやむを得ずオンラインを利用して実施する機会もありましたが、今事業では人と人の触れ合い、交流に欠かすことのできない非言語情報(仕草や身体の状態など)の重要性を表現者の立場で考察・明文化し、できる限りそれらを失わない環境での実施を目指します。引き続き、感染症の情勢に目を向けつつ、障がいのある人や演劇に興味のある地域の人々が、作品を創作、発表できる場所を確保していく必要があります。
- ファシリテーター育成のため、教育現場での演劇ワークショップの実施など、指導経験を積む機会を積極的につくりたい。そこでの経験を活動に活かし、より幅広いワークの実施、参加者同士が居心地の良いと感じられる環境づくりが可能になると考えています。